

新型コロナウイルス感染症と 「ニホンの問題」

札幌学院大学
2020年度後期コミュニティ・カレッジ
講師：井上大樹（人文学部・准教授）

1

0. はじめに (0)本講座受講のお願い

- 動画の内容を30分程度に収めるために、口頭では注釈など省略している説明があります。それらについては添付されている資料(PDFファイル)を参照願います。
- 本講座の動画及び資料の取り扱いについては、本学コミュニティ・カレッジ事務局からの注意事項を遵守いただくようご協力のほどよろしくお願いたします。



2

0. はじめに (1) 講師自己紹介

- 井上大樹(いのうえひろき)
- 札幌学院大学人文学部こども発達学科准教授
- 専門: 教育学、保育学
- 社会的活動(過去のも含む、主なもの)
 - 札幌遠友塾自主夜間中学 代表
 - 社会教育委員(恵庭市、江別市)
 - 札幌市生涯学習センター講座企画委員
- 近著(いずれも共著)
 - 『教育の課程と方法: 持続可能で包摂的な未来のために』(2019)
 - 『新版 教育課程論のフロンティア』(2018)
 - 『教職概論: 「包摂的で質の高い教育」のために: SDGsと学校教育』(2017)



3

0. はじめに (2) 本講座の概要

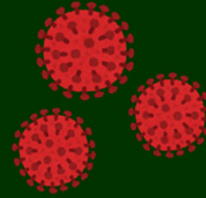
- 新型コロナウイルス感染症とその対策が進む中で、これまでは多少の違和感程度だった、日本に「ありがちなこと」が巷の論議を呼んでいます。
- 本講座ではこのうち、「『新型コロナ』という略称」、「自粛警察」を取り上げ、新しい生活様式(ニューノーマル)で気をつけた方がみんな気持ちよく暮らせるポイントを提案します。



4

1. 「新型コロナ」という略称

- 私たちの生活を一変させたあの感染症
・・・みなさんは何と呼びますか？
- メディアなど使われる用語
 - 新型コロナ
 - コロナ
 - コロナ禍(か)
 - 関連する影響(災難)を含む
- 正式名称は？



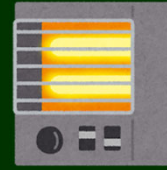
5

1. 「新型コロナ」という略称

- 正式名称は？
 - 新型コロナウイルス感染症
 - 国をはじめとする日本の行政機関で使用
 - COVID (コビッド) -19 注1)
 - WHO(世界保健機関)が決定した正式名称
 - 英語: Coronavirus Disease 2019
 - 和訳: 2019年に確認されたコロナウイルスによる病気
- どの略称が適切なのか

6

1. 「新型コロナ」という略称



- 「コロナ」が独り歩きして困った人々
 - 株式会社コロナ
 - 新潟県に本社がある石油ストーブでおなじみの会社^{注2)}
 - 「CORONA」ブランド・・・「つぎの快適をつくろう」
 - 「コロナ」と報道されるたびに連想されてしまう
 - 社員や家族が偏見や差別にさらされることを危惧
 - 社長からのメッセージ広告が2020年6月13日新潟日報に掲載^{注3)}
 - 報道による「とばっちり」の対応に追われる
- 仕方ないことなのか？

7

1. 「新型コロナ」という略称

- 「コロナ」は現象を的確に示しているか
 - **新型ウイルス**だからここまで苦しんでいる
 - これまでのコロナウイルスは克服した
 - **未解決の感染症**だから大変
 - 「新感染症」でよかったのでは
- そもそも略称にこだわる必要はあるか
 - インターネットでの情報交換が一般化
 - インターネット上では字数制限は実質的にはない
 - 記事やニュースの本文では大半が「新型コロナウイルス感染症」を使用



8

1. 「新型コロナ」という略称

- 高度情報化＋多様化社会の情報伝達
 - あらゆる読み方を想定しないとあらぬ誤解を生む
 - 事前情報や背景知識の全く異なる人々が触れることを前提に
 - 「COVID-19」もしくは「新型コロナウイルス感染症」が適切な表現といえる



9

1. 「新型コロナ」という略称

- わたしたちは「伝える側」にもなっている
 - インターネットの普及によって誰でもが情報を「伝える側」に
 - インターネットを使用しない人も、膨大な情報に毎日触れて暮らしている
 - ニュースなど自分が得た情報を他の人に話すだけでも「伝えて」いる
- 情報をどう使うのが適切かを考えましょう
 - 教育の問題であるが、大人の問題であるので社会全体で試行錯誤を
 - 情報の内容だけでなく伝え方の適切性も吟味を

10

2. 「自粛警察」

- 新型コロナウイルス感染症対策の強化に伴い社会問題化しつつある現象
- 自粛警察(じしゅくけいさつ)の事例
 - 戸外でマスクをしていない人に対して直接ないしインターネットで強い表現で批判(罵倒)する
 - 県外ナンバーの車を傷つけたり、あおり運転を行うなどの危害を加える
 - 飲食店に対し、噂などを根拠に「店を閉めろ」と張り紙をしたり、インターネットで強い表現で批判(罵倒)する

11

2. 「自粛警察」



- メディアの「自粛警察」の説明 注4)
 - 新型インフルエンザ等対策特別措置法第32条に基づく緊急事態宣言に伴う
 - 行政による外出や営業などの自粛要請に応じない個人や商店などに対して、
 - 偏った正義感や嫉妬心、不安感などから
 - 私的に取り締まりや攻撃を行う一般市民やその行為・風潮を指す
 - **俗語・インターネットスラング**である。
 - 新型コロナウイルス感染症の流行による社会的風潮のひとつ

12

2. 「自粛警察」

- 「自粛警察」と言われる行為を問う視点
 - どのような基準・価値観で行為に及んでいるか
 - ターゲット(対象者)は本当に批判される言動を行っているか(事実確認はどうなっているか)
 - 行為そのものの正当性(違法性はないか)
 - ○○警察といわれる人々は新型コロナウイルス感染症以前からいるのではないか

13

2. 「自粛警察」

- 「自粛警察」は、どのような基準・価値観で行為に及んでいるか(要因)
 - 「対策をとらない人が自由に行動している」
 - いい加減な人のせいで自分が犠牲になりたくない
 - 「行政が○○しようと言っているのになんで言うことを聞かないんだ」
 - 皆が協力すべき時に和を乱す者への怒り
 - ある種の不安や正義感の強さで行為化
 - 「例外などないのだ」という「思い込み」に
 - その基準は適切なものなのか
 - 行政(特に国)などの情報をよく読んでみると・・・



14

2. 「自粛警察」

- 「自粛警察」は、どのような基準・価値観で行為に及んでいるか(検証) 注5)
 - 戸外では誰もがマスクをしなければならない？
 - マスクで予防できる根拠は「飛沫感染」
 - マスクは「マスト」ではないし、別の危険も
 - 三密を避けられる環境では不要
 - 熱中症の危険性がある場合
 - 乳幼児は窒息などの危険も考慮に
 - アレルギーや障がいの特性によっても別の問題が
 - マスクの着用が求められる場合の条件を適切に把握しないと、別の健康問題を引き起こす危険性



15

2. 「自粛警察」

- 「自粛警察」は、どのような基準・価値観で行為に及んでいるか(検証)
 - 県境を越えた移動は(一律に)自粛すべき
 - 国の緊急事態宣言(4/7～5/25)
 - 外出の極力の自粛
 - 安倍首相「接触の8割削減を」
 - 緊急事態宣言解除後(5/25～)
 - 不要不急の旅行や帰省など県境越え移動の自粛の要請
 - 「Go To トラベル事業」の実施(7/22出発分から) 注6)
 - 東京都を出入りする場合を除く
 - 三密回避など「新しい生活様式」の遵守を義務づけ



16

2. 「自粛警察」

- 「自粛警察」は、どのような基準・価値観で行為に及んでいるか(検証)
 - 県境を越えた移動は(一律に)自粛すべき
 - 日がたつにつれ、基準があいまいに
 - 特にお盆の帰省は都道府県知事の見解が真っ二つ
 - 都道府県ごと、感染状況ごとに目まぐるしく要請内容が変化
 - 全国ニュースで感染者が多い都道府県の施策が報道し、情報が錯綜
 - **自分の地域はどうすればよいか「よくわからない」**

17

2. 「自粛警察」

- 「自粛警察」は、どのような基準・価値観で行為に及んでいるか(検証)
 - 飲食店は全て営業を自粛すべき
 - 集団感染(クラスター)の発生源として「夜の街」が頻繁に取り上げられる
 - 特に、接客を伴う飲食店が「やり玉」に
 - 感染者の多い都道府県を中心に「夜の街」への自粛要請が相次ぐ
 - 国の新型コロナウイルス感染症対策
 - 飲食店どころか、家庭内でも「三密」回避を要請
 - 衝立のない向かい合わせの会食は避ける
 - 「三密」対策ができていない飲食店に関して何ら制限はなし
 - 実質はともかく、飲食店「全体」に対する自粛要請は自治体を含めて出していない



18

2. 「自粛警察」

- 「自粛警察」は、どのような基準・価値観で行為に及んでいるか(検証)
 - 飲食店は全て営業を自粛すべき
 - 飲食店「全体」に対する自粛要請は自治体を含めて出していない
 - 「夜の街」「接待を含む飲食店」の言葉が独り歩き
 - 各地の繁華街の「酒を提供する飲食店」「カラオケ店」などからのクラスター感染、自粛要請がたびたび報道
 - 「飲食店」=自粛すべき業態 というバイアス(曲解)に
 - 現実問題はともかく、「三密対策が施されている飲食店の営業に規制・自粛はないと言える
- 「自粛警察」のターゲットの基準はあいまい、個人的解釈が相当入っていると**言わざるを得ない**

19

2. 「自粛警察」

- ターゲットは本当に批判される言動を行っているか(事実確認はどうなっているか)
 - 不当な批判・罵倒を受けた事例
 - 噂だけで「この会社に(新型)コロナ(ウイルス感染症)患者がいる」と流布される
 - 他県ナンバーの車だというだけで投石などの嫌がらせを受けた
 - 親の体調が気がかりで首都圏から帰省をしたら、「早く帰れ！」と玄関に張り紙をされた
 - 「店閉めろ！」と連日のようにシャッターに張り紙をされる飲食店
 - 事実誤認や不十分な確認で「自粛警察」が発動される事例が相次いでいる危険性

20

2. 「自粛警察」

- 行為そのものの正当性（違法性はないか）
 - 刑法上の違法行為
 - 威力業務妨害罪（刑法234条）
 - 強要罪（刑法223条）
 - 侮辱罪（刑法231条）
 - 器物損壊罪、傷害罪の可能性も
 - 民事上の違法行為
 - 不法行為（民法709条）に基づく損害賠償が発生
 - 社会問題どころか、新たな治安問題に発展する危険性もはらんでいる
 - 三密を避けるため処理能力が限られている司法機関を圧迫しかねない



21

2. 「自粛警察」

- ○○警察といわれる人々は新型コロナウイルス感染症以前からいるのではないか
 - いわゆる「私刑」の最新型と言えるのでは？
 - 私刑：公的機関を介さず、一定のルールに従わない者に制裁を加えること。
 - かつての「私刑」
 - 村八分
 - リンチ
 - 同調性を求めるムラ社会の中で行われた
 - 個人で判断せず、一定の権威や取り決めのもとで行われていた



22

2. 「自粛警察」

- ○○警察といわれる人々は新型コロナウイルス感染症以前からいるのではないか
 - 現在の「私刑」
 - インターネット社会で世界中どこからでも情報が入手できる
 - 誰でもが発信できるので、誰に対しても批判、罵倒できる
 - 個人の価値観・判断で行動できる
 - 拡散など、便乗に歯止めが効きづらい
 - 相手の顔が見えないコミュニケーションが現実世界(リアル)でも当たり前

23

2. 「自粛警察」

- ○○警察といわれる人々は新型コロナウイルス感染症以前からいるのではないか
 - 現在の「私刑」の類型
 - ネット私刑
 - 社会的に許されないと「みなした」者に対して個人情報や特定したり、誹謗中傷を行うこと。
 - リアルでの私刑
 - 社会的に許されない言動に対し、罵倒に等しい強い批判を直接加える
 - 主にマナー違反
 - ネットでもリアルでも相手の事情は考慮されない



24

2. 「自粛警察」

- 「〇〇警察」は「顔の見えない関係」が生む
 - 小規模コミュニティで帰省者宅へ「帰れ」の張り紙
 - 「田舎」本来の関係性ができていれば・・・
 - 「村八分」で収まらず「十分」になりかねない
- 現在の「私刑」は顔が見えない相手に雪だるま式に膨らむ暴力的言動に「怖さ」がある
 - 同調圧力の強さは変わらないまま現代にいたる
 - ある種の正義感の強い人が陥る傾向
- 「私刑」はまったくもって「悪」なのか？
 - 権力や権威にたよらず集団やコミュニティをコントロールする「自治」にはある程度必要なこと
 - 「私刑」をどうコントロールするかを社会的に議論

25

3. まとめ：ニューノーマルの心構え

- 多様性に配慮した言動
 - 自分は相手の事情も考えて行動する
- 多様性を認めるココロ
 - 相手の言動には何らかの事情があると理解する
- 適切な手段で自分たちの事情や意見を発信することはいとわなない
 - 新型コロナウイルス感染症で配慮すべきは医療関係、観光関係だけなのか？
 - 利用者の事情に関わらず受け入れを迫られる福祉施設労働者も相当のリスクを背負っている
 - 介護施設、保育所、学童保育 など
- 自分の「当たり前」を相手に押し付けない



26

3. まとめ：ニューノーマルの心構え

- 「新しい生活様式」(ニューノーマル)のコミュニケーションは「顔が見えない」中で行うことが大半に
- ニューノーマルで変えるべきは「生活様式」だけか？
 - 日本社会が置き去りにした「当たり前」の見直し
 - 「言わずもがな」の同調圧力での集団形成はもうできないと覚悟を決める
 - 様々な個人の価値観や事情を認め合う場や集団、ネットワークの作り方を大人も子どもも一緒に試行錯誤することがこれからの「ニホンの課題」

27

3. まとめ：ニューノーマルの心構え

- 新型コロナウイルス感染症には、「これが正解」と言い切れる対策が十分に確立しているわけではない(科学的には)
 - 飛沫感染説が主流だが空気感染説は否定されていない
- 特に、今回の対策は感染のリスク(確率)をコントロールし、経済活動と医療体制の維持を両立させることが目的
 - 常に全員が(自粛)要請を順守することは想定されていないことに留意

28

3. まとめ：ニューノーマルの心構え

- ・グローバル化による多様化、高度情報化のもと「不確実な未来」をどう生きるか
- ・その正解を一つであると追い求め、他の答えを徹底的に排除する社会にするか
- ・適切な解を求めあい、認め合うなかで、包容力の高い社会にするか
- ・この「ニホンの問題」は、わたしたちには必須の、**時間無制限だが相談はできる、人生レベルの試験であるのではないか。**
 – 新しい生涯学習・社会教育の主題



29

注釈

1. 「新型コロナウイルス」をSARS（重症急性呼吸器症候群）を引き起こすウイルス（SARS-CoV）の姉妹種であるとして「SARS-CoV-2」と称する場合もある。
2. 正確には石油暖房機、給湯機、エアコンなどを取り扱う総合住宅設備メーカー
3. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000048014.html> (2020年8月23日閲覧)
4. Wikipediaから引用。ただし、この記事自体が暫定的なものであることに留意。なお、この引用には参照文献として以下の3つの記事が提示されている。
 - ・藤和彦「コロナ『自粛警察＝歪んだ正義』批判で隠れる本質…自己犠牲を厭わない真面目な人ほど陥る」独立行政法人経済産業研究所(2020年5月14日掲載), 2020年5月24日閲覧。
 - ・真鍋 厚「『自粛しないと通報するぞ』自警団を買って出る人が怯えているもの」講談社現代ビジネス (2020年5月4日掲載), 2020年5月10日閲覧。
 - ・「『自粛警察』危うい正義感 強まる圧力『店シメロ』—専門家が警鐘・新型コロナ」時事通信 (2020年5月9日掲載), 2020年5月10日閲覧。
5. 国の政策の視点からの検証は、内閣官房・新型コロナウイルス感染症対策ウェブサイト(2020年8月23日閲覧)を参照。
6. 国土交通省観光庁ウェブサイト(2020年8月23日閲覧)



30

コロナではたらくかぞくをもつ、キミへ

まだまだ、せかいじゅうが、しんがたコロナウイルスで、
たいへんなことになっているね。

そとであそべなくなったり、マスクをしなきゃいけなかったり、
つらいこともたくさんあるとおもいます。

そんななかでも、わたしたちコロナは、
くらしをゆたかにする“つぎのかいてき”をつくろうと、
きょうも、がんばっています。

コロナではたらいてくれている、
キミのおとうさんやおかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、
おじさん、おばさん、おにいさん、おねえさんも、
いっしょうけんめいです。みんな、じまんのしゃいんです。
いえにいるときのイメージとは、ちょっとちがうかもしれないけど。

もし、かぞくが、コロナではたらいているということで、
キミにつらいことがあったり、なにかいやなおもいをしていたりしたら、
ほんとうにごめんなさい。

かぞくも、キミも、なんにもわるくないから。
わたしたちは、コロナというなまえに、
じぶんたちのしごとに、ほこりをもっています。

キミのじまのかぞくは、
コロナのじまんのしゃいんです。

かぶしきがいしゃコロナのしゃちょうより

